

平成 18 年 度 教 育 研 究 業 績 書

氏名 湯川 隆子

最終学歴	1974年3月京都大学大学院教育学研究科博士課程（教育方法学専攻）単位取得満期退学			
取得学位	教育学修士			
所属学会	日本心理学会、日本教育心理学会、日本発達心理学会、日本社会心理学会、日本家族心理学会、日本グループダイナミック学会、SRCD（The society for Reaserch of Child Development）、ISSBD（The International Society for the Study of Behavioural Development）			
現在の専門分野	発達心理学・社会心理学			
研究課題	ジェンダーの視点から見た生涯発達心理学			
著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学会発表）				
1. 大学生におけるジェンダー特性語の認知 - 連想反応からみた1970年代と1990年代の比較 - （ポスター発表）	協同発表	2006年 9月	日本社会心理学会47回大会	ジェンダー認知における青年の約20年を隔てた経年変化を検討したもの（清水裕士・廣岡秀一との協同発表）発表論文集 P 308-309
高齢者のジェンダー特性とサクセスフル・エイジング - 予備的検討 - （ポスター発表）		2006年 11月	日本心理学会第70回大会	高齢者の両性具有的なジェンダー特性とサクセスフル・エイジングの関連性を面接によって事例的に検討したもの（石田勢津子との協同発表）発表論文集 P 1391
「フェミニスト心理学」がめざすもの - その方向性を探る - （シンポジウム）		2006 11月	日本心理学会第70回大会	フェミニスト心理学が今後どのような方向を目指すべきかを議論するシンポジウムを開催。司会者としての参加。
Socially Represented Gender Bias of Aggressive Pesponses Assessed by P - F Study in Japanese Students. （Poster Presented）		2006年 6月	The 19th ISSBD Bienneal Meeting in Melbourne, Australia.	This study examined the hypothesis that male Jpanese students represented more aggressive verval responses than female students in P-F Test.